

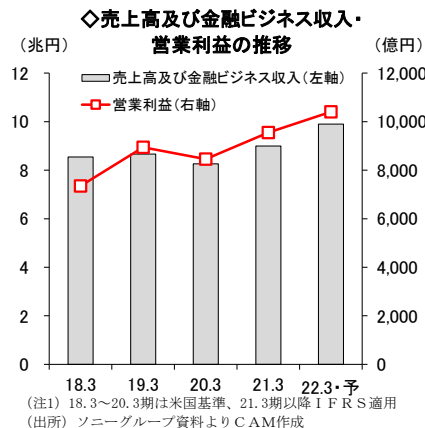
企業ニュース ソニーグループ

(東証1部 : 6758) <http://www.sony.com/ja/>

作成者: 村上大志

「クリエイティブエンタテインメントカンパニー」

1946年設立。エンターテインメント、エレクトロニクス、金融の3つの領域で事業展開する日本を代表する企業。2021年4月にソニーから現社名に商号変更した。2020年11月に、P S (プレイステーション) の次世代機「P S 5」を発売。発売初年度の販売台数は780万台と、目標の760万台を超えP S シリーズ最大の販売台数を達成。22. 3期の販売台数目標は1, 480万台以上(9月末時点560万台)。21. 3期のセグメント別売上高及び営業収入構成比はG & N S (ゲーム&ネットワークサービス) 29%、音楽10%、映画8%、E P & S (エレクトロニクスプロダクト&ソリューション) 23%、I & S S (イメージング&センシング・ソリューション) 11%、金融18%、その他1%。



過去最高の売上高、営業利益を更新、今期2度目の上方修正を発表

22. 3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は売上高及び金融ビジネス収入が4兆6, 262億円、前年同期比14%増、営業利益が5, 985億円、同11%増。スマートフォンの販売台数増加に加え、テレビやデジタルカメラの製品ミックス改善などでE P & Sが大幅な増収増益となり業績をけん引したほか、ストリーミングサービスの収入が増加し2桁の増収増益となった音楽が業績に寄与した。G & N Sは追加のダウンロードコンテンツやP S 5の販売増で2桁の増収を達成したが、P S 5の製造コストを下回る戦略的な価格設定による損失などで減益となった。

22. 3期の会社計画は売上高及び金融ビジネス収入が9兆9, 000億円、前期比10%増、営業利益が1兆400億円、同9%増。8月に引き上げた通期見通しからさらに売上高で2, 000億円、営業利益で600億円の上方修正を行った。セグメント別ではストリーミング市場拡大の恩恵を受ける音楽と、米国を中心に大型作品の劇場公開が徐々に再開している映画の上方修正が目立つ。高機能なハードウェア群と豊富なコンテンツの組み合わせにより、ゲームや音楽などエンターテインメント領域でのビジネス拡大が期待される。

【株価動向・投資判断】

リカーリング(継続収入)ビジネスの拡大で、持続的な成長が期待される。足元で関心が高まっているメタバースの関連企業としても注目したい。

<6758 ソニーG 業績: 米国基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高及び金融ビジネス収入	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 3	8, 259, 885 (▲ 5)	845, 459 (▲ 5)	799, 450 (▲ 21)	582, 191 (▲ 36)	471. 6	45. 00
21. 3	8, 999, 360 (9)	971, 865 (15)	1, 192, 370 (49)	1, 171, 776 (101)	952. 3	55. 00
22. 3 予	9, 900, 000 (10)	1, 040, 000 (9)	990, 000 (▲ 1)	730, 000 (▲ 29)	—	未定

(注1) 22. 3期よりIFRSを任意適用。22. 3期の伸び率は21. 3期にIFRSを適用したと仮定して算出した数値
(注2) 20. 3期、21. 3期は米国基準の数値で、「売上高及び金融ビジネス収入」は「売上高及び営業収入」



【主要株価指標】 (売買単位: 100株)	
株価 (2021/12/17)	13, 850 円
年初来高値(高値日)	14, 625 円 (21/11/17)
同 安値(安値日)	9, 915 円 (21/1/28)
予想 P E R (22. 3 予)	— 倍
1株株主資本(PBR算出用)	5, 710. 2 円
P B R	2. 43 倍
予想配当利回り	— %
(1株当たり配当金 未定)	
R O E (21. 3)	24. 2 %
発行済み株式数	126, 108 万株